

■ご挨拶

当社の風力発電への取り組み（続）

日本風力発電協会
日立造船株式会社

監事 小林 一誠
風力発電事業推進室



はじめに

日立造船の小林です。平成 27 年の定時社員総会で監事就任をご承認いただき、今年で 3 年目を迎えることになりました。引き続き、足立監事と協力し協会発展のため頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

当社の風力発電に於ける課題

前年度号（第 12 号）で当社の風力事業の取り組みをご紹介させて頂きました。これまでの EPC 主体から、FIT を追い風に軸足を発電事業へシフトし、昨年 4 月に社長直属の組織として、体制強化・要員補強が実施されました。

しかしながら、昨年は風力発電事業者にとっては大きなマイナスインパクトが、また、当社のような後発事業者にとっては致命的になりかねない 2 つの大きな問題に直面しました。

- ・ FIT 価格の段階的引き下げ
- ・ 東北電力管内の系統連系問題（東北 3 県にも及ぶ募集プロセスと莫大な基幹増強費用）

風力発電事業の経験も知見も少ない小職が言える立場ではございませんが、わずか数年後に価格が引き下がること、基幹系統の費用負担のあり方がたびたび変更されることには不満を抱かざるを得ません。このような背景下で、当社の陸上・洋上の昨年の成果と今後の取り組みをご紹介させていただきます。

陸上風力発電

既に秋田県内で運転中の“株雄物川風力”に続き“株いわき風力”を由利本荘市に設立し、2MW 級風車：1 基を運転開始しました。また、同じく 2MW 級風車：1 基の事業化を決定いたしました。

- ・ 岩城勝手風力：H29 年 3 月（運転開始）
- ・ 松ヶ崎風力：H30 年 4 月（運転開始予定）

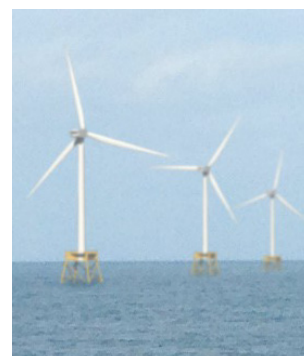
また、青森県で 15 年以上の長期にわたり推進してまいりました六ヶ所村エリアでの大型ウィンドファームが、東北部エリアでの募集プロセスの影響を受け、事業化が遅れることになりました。逆に

この募集プロセスを利用し、岩手エリア他に於いて、第 2、3 の大型ウィンドファームの事業化を鋭意進めてまいります。

岩城勝手風力発電所



着床式洋上風力発電



洋上風力発電

当社は浮体式と着床式の両方に取り組んでいます。浮体式は NEDO の次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究に採択され、水深 50~100m を対象としたバージ型浮体の研究を進めています。本年 8 月から当社堺工場で浮体の製作を開始し、来年には北九州沖に風車を搭載した浮体を設置して運転を開始する予定です。着床式は、新潟県村上市の岩船沖洋上風力に当社を含むコンソーシアムが事業候補者として採択されており、事業化に向けて事業性評価を実施しています。その他、次期案件形成のため、各地において鋭意事業開発を進めております。また最近では、NEDO の進める低コスト施工技術調査研究の採択予定先選ばれており、今後新形式の基礎構造の研究に取り組む予定です。

おわりに

以上のように、当社は風力発電事業者としては新参ですが、部会活動への参加も含め、協会発展の為懸命に努力しますので、ご支援・ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。